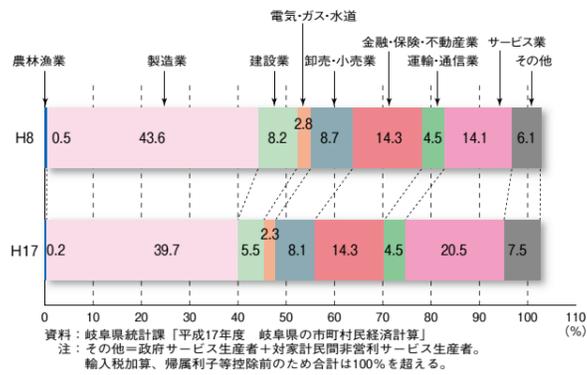


データで見る.....

# 可児市のこれから

市は現在、第四次総合計画の策定を進めています。  
今回は、市のこれまでの歩みや現状をいくつかの統計資料で紹介し  
ます。これらを参考に、可児市の将来について一緒に考えてみませんか。

図4 経済活動別市内総生産の構成比



## 産業の状況

本市の産業は、第2次・第3次産業が大半を占めており、特に製造業とサービス業の割合が高くなっています(図4参照)。  
製造業では一般機械器具および輸送用機械器具が多く、製造品出荷額は平成2年以降横ばいの状況でしたが、平成18年から19年にかけて大きく増加しています(図5参照)。  
また、商業では小売業が8割以上を占め、年間商品販売額は平成14年以降微増しています(図6参照)。  
一方、第1次産業である農業は、農業粗生産額(農家が農業生産によって得られた農畜産物と、その農畜産物を

図6 年間商品販売額

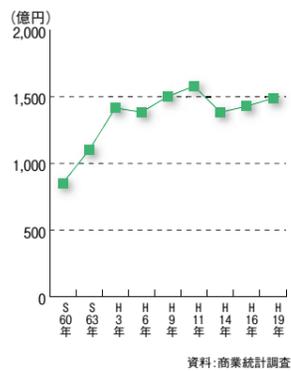
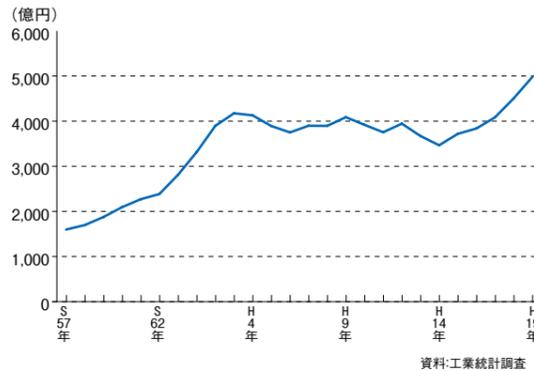


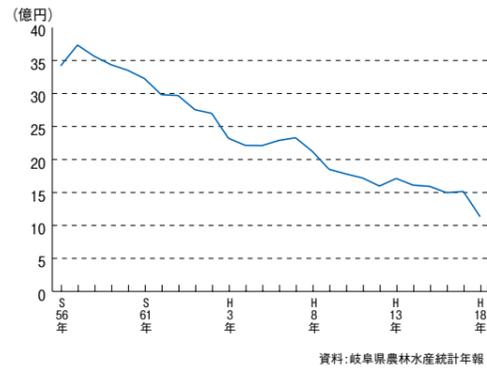
図5 製造品出荷額の推移



## 財政の状況

原料として作られた加工農産物を販売して得た利益額(図7参照)が減少を続けています(図7参照)。これは、後継者不足などによる農業従事者や耕地面積の減少によるものと考えられます。  
本市は、継続的な人口増加や県内最大級の工業団地の立地などにより、

図7 農業粗生産額の推移



比較的豊かな市税収入に恵まれ、安定的で順調な財政運営を行ってきました(図8参照)。  
しかし、世界同時不況の影響を受け、今年度以降は市税収入の大幅な減少が見込まれています。  
また、少子高齢化の進行に伴い、扶助費(児童福祉費や社会福祉費など)、市が法令に基づいて義務的・固定的に支出する経費(や繰出金)一般会計から介護保険特別会計や後期高齢者医療特別会計などに繰り出す経費)が増加し続けることが予想されます。  
さらに、図8を見ると、経常収支比率(毎年決まって入ってくる収入のうち、毎年決まって支出する経費にどれくらいの割合でお金を充てているかを示すもので、数値が低いほど財政に余裕がある)が上がりが続いています。これらのことから、健全な財政運営状態ではあるものの、今後市の財政運営はより厳しさを増し、新しい政策に使うことのできる財源が減少を続けることが予想されます。

図8 決算規模と経常収支比率の推移

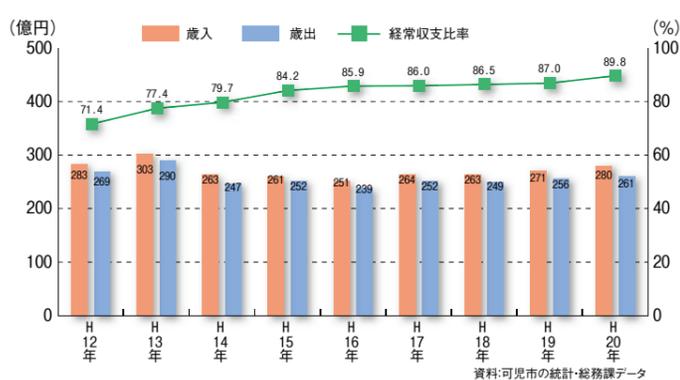
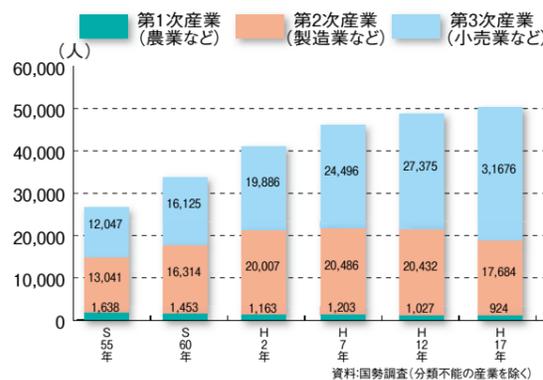


図3 産業別就業者数の推移



## 人口の状況

本市は、昭和40年代後半から急激に人口が増加しました(図1参照)。名古屋圏のベッドタウンとして大規模な住宅団地が形成され、定住人口を呼び込むことで人口増加を続け、都市化も進みました。平成2年以降、外国人市民が増加を続けてきたことも人口増加の一因です。  
しかし、昨秋からの世界同時不況の影響などもあり、昨年11月に人口減少に転じています。平成18年に実施した可児市人口推計では、平成29年度をピークに人口が減少に転じると予測していましたが、予想より早く人口減少の局面を迎えている可能性があります。

図1 人口の推移

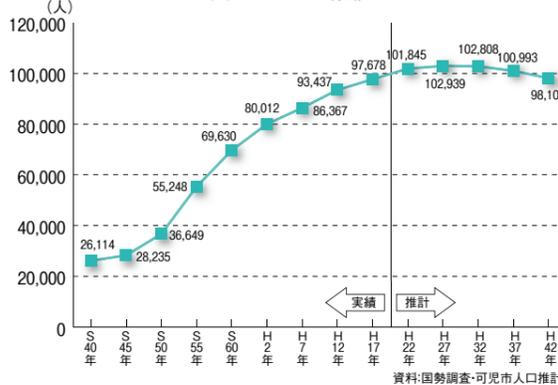
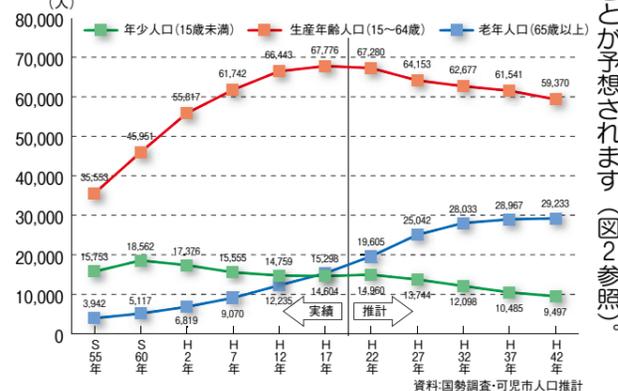


図2 年齢3区分別人口の推移



さらに、年齢3区分別人口の推移を見ると、少子高齢化も今後急速に進むことが予想されます(図2参照)。

## 就業の状況

本市の就業者数は、近年では伸びがやや緩やかになってはいるものの、継続して増加しています(図3参照)。  
産業別で見ると、第1次・第2次産業の就業者数は減少傾向にありますが、第3次産業では増加を続けています。今後は、特に生産年齢人口の減少に伴い、就業者数も減少することが予想されます(図2参照)。  
また、昼夜間人口比率(夜間人口100人当たりの昼間人口の割合)は平成17年で90.2となっており、市内から市外に通勤・通学している人口が、市外から市内に通勤・通学している人口を上回っている状況です。

## ほかにもデータはあるの？

ここで紹介したデータ以外にも、市のこれまでの歩みや現状を示すデータはたくさんあります。「可児市の統計」や「市民意識調査報告書」など、主なものは市のホームページ「各種資料」でご覧いただけます。

問合先 総合政策課